

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H30 入学 現 6 年生	県	全国	県	全国
	(12月)	(4月)	(12月)	(4月)
	64.7	61	48.0	64
	(0.99)	(0.89)	(0.96)	(1.05)
R5 正答率の全国比		0.90		1.02

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

◎ 「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・ 5年時から6年時の推移を見ると、5年時との比較では国語は0.1ポイント下がっている。6年時の結果は県平均より0.11ポイント低く、全国平均を0.1ポイント下回る結果であった。
- ・ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように表現することができていない。
- ・ 漢字の書き取りができていない。
- ・ 自分の考えを書くことができていない。
- ・ 敬語を理解できていない。

【算数】

- ・ 5年時から6年時の推移をみると、5年時との比較では0.09ポイント上がっている。6年時の結果は県平均より0.05ポイント高く、全国平均を0.02ポイント上回った。
- ・ 高さが等しい三角形の面積の大小を比べるときに、底辺の長さに関係していることを理解し記述できていない。
- ・ 三角形の意味や性質を理解していない。
- ・ 百分率を理解していない。
- ・ 少数の加法や乗法ができていない。

【意識調査】

- ・ 友達関係に満足している児童が多い。
- ・ 地域の行事に参加している児童が多い。
- ・ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童が少ない。
- ・ 土日平日と家庭でのメディアの使用率が高い。
- ・ 将来の夢や希望を持っている児童が全国や県平均より少ない。
- ・ 「いじめは、どんな理由があってもいけない」の課題に、「3どちらかといえば、当てはまらない」と認識している児童が5.9%である。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・教師に実施したアンケートでは、ほとんどの教師が、めあてに即したまとめをする、ふりかえりを行うなど「授業づくりのステップ1・2・3」の流れを意識して授業を継続して行う。
- ・7月のアンケートでは、東川登小の「話し方名人」「聞き方名人」の観点である声の発表に適した声の大きさで発表する、相手に注目して話を聞くなどおおむねできている。しかし、学年が上がるにつれて、それらの観点を意識できていない割合が増える傾向にあるので引き続き指導を行う。
- ・教師は「話し方」「聞き方」の指導を強化する。
- ・ペア対話やグループ対話など、学年に適した話し合いを設定する。
- ・タブレットを用いて、児童が苦手としている部分の復習を行えるようにする。
- ・単元（題材）の目標を設定する。その目標を達成するために、ICTの活用、話し合い活動など、必要な学習活動を設定する。

### (2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・タブレットドリルやフォローアッププリントを用いて、学力の定着を図るようにする。
- ・実態（家庭学習の長さ、ゲームや動画視聴等の長さ）を保護者に伝えて、家庭の協力を得ながら生活習慣の向上を図る。→生活学習計画表などの作成、実施。
- ・語彙力、読解力をつけるために、読書活動を推進する。（学校図書館利用を取り入れた活動を増やす）